お流れの源を尋ねよう

九州大谷短期大学名誉学長
真宗大谷派観定寺住職
大江憲成（みなもと）

教化伝道研修会に参加して

今年の三月。福岡空港を発って二時間半、雲の間から新千歳空港が見えてきました。大地は雪で真っ白で空は澄み切っていました。私はその光景にまず感動しました。九州を発った時の景色とは大変な違いであったからです。この大地の隅々にまで東本願寺にかかわる多くのご寺院そしてご門徒の皆様方が、お念仏に出会いながら活動されご苦労されてこられたことを思うにつけ、感動とともに身の引きしまる感がいたしました。

私はこれまで毎年、北海道教区が主催する「教化伝道研修会」にお招き頂いてまいりました。会場は東本願寺北海道教区青少年研修センターで、大変素晴らしい研修施設でした。毎年三泊四日の研修会で、これで三回目。若手のご住職、あるいはその候補者、すでに寺院活動にご努力されている方々がご参加くださいました。札幌周辺、遠くは宗谷町、阿寒町などから、またこの旭川からもご参加くださいました。日々抱えている課題を持ち寄っての研修でありましたが、場合によっては感想だけや傷のなめ合いで終わる場合もある中で、一人一人抱えている問題をまずは浄土真宗の教えに学んで、その問題の持つ課題の本質を明らかにして、それを荷負ってしっかりと大地に足を踏みしめて生きていくようにと願われているものでありました。参加される方々は申すまでもなく、準備の段階からそれを支えてくださる助言指導の先生、スタッフの皆様のご苦労は大変なものであったに違いないと頭の下がる思いがいたしました。

さて、この三回の研修会に通底するテーマは「顕浄土真実」。「浄土の真実を顕かにする」という意味です。親鸞聖人には多くの著作がありますが、中でも『教行信証』は「生活に振り回され、境遇に沈んでいくしかない私たちにこそ、その足下に仏法が開かれているのです」と高らかに宣言された大切な書物であります。一言で言えば、仏法この身にあり、ということです。

この御書物は正式には『顕浄土真実教行証文類』と申します。

浄土の真実を顕かにする歩み

研修会に通底するテーマ「顕浄土真実」は、もちろん、そこから頂いたものです。浄土の真実を顕かにする。本願の大地に気づいて本願の大地を顕かにし、いよいよ本願の大地に帰って行く歩みであります。ここで「顕」とは「顕かにする」ですが、たとえば図書館でいろいろと思索を練ったすえに理論を構築して分かった気になるというよりも、具体的に現実に身を置いて、そこから問われてくる呼びかけ自体を顕かにすることであり、あえて言えば、顕かにしていく「歩み」であります。「顕」は顕微鏡の顕です。顕微鏡は細菌の姿は微細なため日常の目では見えないけれど、すでにずっとはたらいている細菌の存在を白日の下に顕らかにするということです。

見えないけれど無いわけではない。如来さまのご本願も、色もなく形もない、その出会いも不可思議、不可説、不可称であります。しかし、だからといって無いわけではない。ご本願は今日この身にずっとはたらき続け、呼びかけてくださっているのです。

形はなくても有るのです。わが身にはたらいている本願のはたらきを顕かにする。それが「顕」であり、本願に目覚めて生きることです。

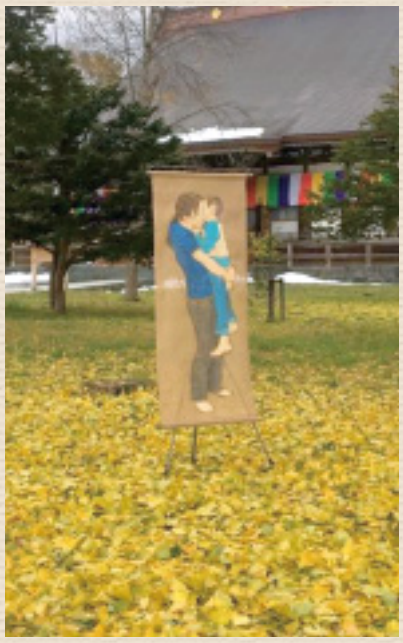
酌流尋源

さて、「酌流尋源」ということばがあります。「流れを酌んで源を尋ねる」と読みます。「流れを酌んで本源を尋ぬるに、偏に是祖師の徳なり。須らく仏号を称して師恩を報ずべし」（覚如『報恩講私記』真宗聖典七三九頁）流れを酌んで本源を尋ねてみると、これはひとえに祖師親鸞聖人のお徳である。だからお念仏を申して師のご恩に報いていこう。この文は本願寺の三代目の覚如上人の『報恩講私記』に書かれたものです。親鸞聖人のご苦労、恩徳を称え、私たちにまで伝わっている本願念仏の歴史をひもといてくださっています。川の流れに出会った。ノドが渇いていたのでヒシャクで一杯川水を酌み取ってゴクンと飲んだ。ああおいしい。ふと、その水はどこから流れてきたのだろうかとこの水の水源を尋ねずにはおれなかった。私たちは飲んだ水がおいしかったことにのみ囚われて、その源、あるいはそこからわが身にまで至っている流れのありがたさには気づいていません。

「本源」と「歴史」。

そこに私たちの背中を押してくださり、お念仏に出会えと勧めてくださっている本願のはたらきがあるのです。「迷ったときには源に帰るんだ」。これも昔からの智慧のお言葉です。濃霧で道に迷ったとき、むりやり前に進むとますます枝分かれした迷路に迷い込みます。自分がどこにいるのか、どこに向かっているのか、位置も方向も分からなくなってしまいます。人間の不安の正体でこの呼びかけが響いてくるのです。

ダキシメルオモイ写真集



親が子を抱きしめる
僕らも 親も そのまた親も
太古の昔から
抱きしめられて 育ってき
ました…

画家
小林（こばやし） 憲明（のりあき） 氏

真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより
4・5・6月号
2017.04.01
発行所 真宗大谷派 旭川別院
輪番 金﨑 恵明
〒070-0030 旭川市宮下２丁目
TEL.0166-22-2409
FAX.0166-22-2411
■印刷：植平印刷株式会社
■旭川別院ホームページ
http://potato9.hokkai.net/~betsuin/
真宗大谷派旭川別院　検索

法座・行事案内

本院

4月

1日　午後7時　列座学習会　畠山　明光師
7日　午後1時　群萌の会　列座
8日　午後1時　マヤの会　列座
8日　午後7時～8時30分　旭川別院公開講座　竹橋　太師
9日　午前7時～8時　旭川別院公開講座　竹橋　太師
13日　午後1時　初心の集い　輪番・列座
15日　午後7時　壮年の集い　列座
16日　午後1時　同朋の会　列座
18日　午後1時　婦人会（総会）　列座
27・28日　午後1時　定例法座　智恵光寺住職　松澤　正樹師
未定　あゆみ会　名願寺住職　名畑　格師
13日　午後1時　立教開宗記念法要　相続講員物故者追弔会　列座

5月

1日　午後7時　列座学習会　畠山　明光師
7日　午後1時　群萌の会　列座
8日　午後1時　マヤの会　列座
12日　午後1時　定例法座　顕正寺前住職　高岡　晃正師
13日　午後1時　初心の集い　輪番・列座
13日　午後7時～8時30分　旭川別院公開講座　竹橋　太師
14日　午前7時～8時　旭川別院公開講座　竹橋　太師
16日　午後1時　同朋の会　列座
18日　午後1時　婦人会　列座
20日　午後7時　壮年の集い　列座
27・28日　午後1時　定例法座　興隆寺住職　伊藤　秀師
未定　あゆみ会　列座

6月

1日　午後7時　列座学習会　畠山　明光師
1日～10日　午後1時　永代経会　輪番・列座
13日　午後1時　初心の集い　輪番・列座
16日　午後1時　同朋の会　列座
17日　午後7時　壮年の集い　列座
24日　午後7時～8時30分　旭川別院公開講座　竹橋　太師
25日　午前7時～8時　旭川別院公開講座　竹橋　太師
27日　午後1時　臨時法座　列座
未定　あゆみ会

※次頁へ続く

まことのことば　信心のあさきをなげきてこころざしを深くして常に名号を唱うべし（源信僧都）

立教開宗記念法要

立教開宗とは文字の通り教えを立て宗を開くという意味で、親鸞聖人が浄土真宗をお開き下さったことを言います。聖人の主著であります『教行信証』を製作された元仁元年（一二二四年）四月十五日を起源とし、記念法要を勤めております。

念仏相続の大切な法要ですので皆様ご参詣ください。尚、当日は〈相続講員物故者追弔会〉も併せてお勤め致します。

日　時　4月15日(土)　13時
講　師　名願寺住職　名畑　格　師

永代経法要

平成二十九年六月一日から十日午後1時より本堂において、永代経法要を厳修いたします。

「永代経」とは、永代にわたって、読経を通して仏さまの言葉（教え）にふれ、私と私に続く縁のある人たちが出遇い、意味を問い続けていく御仏事です。それは私に先立って人生を歩み、人生を終えていかれた大切な方々の「死」をご縁にして、仏さまの教えに身を据えて、私を学ばせていただくことです。永代経法要は、「私に、人として生きるとはどういうことかを教えてくださる仏さま」と遇わせていただく尊いご縁です。

永代経法要へのお参りをとおして、「仏さま」の教えに遇い、本当の「自分」に出遇っていただきたいと願っております。

輪番日誌

旭川別院　輪番
金﨑　恵明

報恩講を間近に控えた昨年十月三十日から降り始めた雪。これがそのまま根雪となり、その後、幾度もの暴風雪に見舞われた長い冬でした。例年であれば、落ち葉が敷き詰められた中での報恩講。昨年は、降り積もった雪の白を背景に、本堂回廊に張り巡らされた五色幕彩り鮮やかな光景でした。

金子みすゞ氏の「報恩講」の詩が思い浮かびます。

「お番」の晩は雪のころ、雪はなくても闇のころ。くらい夜みちをお寺へつけば、とても大きな蝋燭ととても大きなお火鉢で、明るい、あたたかい。

「お番」とは報恩講のこと。雪の冷たさと火鉢のあたたかさ、闇のくらさと蝋燭の明るさを対比して、懐かしい感じがします。

五ヶ月間にわたる長い冬が終わり、この頃やっと暖かく春らしい日和になりました。まだ別院境内には、除雪で集められた雪が山のように積まれています。この雪がとけるには、ただお日様が照り、気温が高くなれば良いだけではありません。さらに風が吹くことによって急速に雪どけは進みます。色々な条件が整い、それが後押しをして、次第に雪はとけていきます。

私も歳を重ねてきましたが、色々な縁（条件）によって今、この私があります。これまで、たくさんの方々から注意や叱咤、お育てをいただきました。当時分からなかったお育てが今、この身に響きます。これを「時機純熟」というのでしょう。

毎日、徐々に減りいく境内の雪山をのぞみながら、あたたかさと明るさを感じています。

今月の立華

写真の立華はお彼岸にお荘厳されたものです。花材には主に彼岸桜・レンギョウを使用しております。今回は菊の大輪を用いず、彩り豊かに春をイメージして立てられました。

旭川別院大谷婦人会 一泊研修旅行のお知らせ

日　時　六月十九日(月)・二十日(火)
午後一時集合(別院)
お勤め・お話、終了後出発
（午後二時三十分～三時）
場　所　層雲峡(層雲峡グランドホテル)

＊費用・時間等は未定です。
＊締め切り　五月十八日(例会)迄
＊申し込み　旭川別院　大野・井畑
＊六月十八日の婦人例会はお休みです。

旭川別院大谷婦人会 総会のお知らせ

日　時　四月十八日(火)
午後一時～三時
内　容　総会・法話
場　所　大谷ホール1階
＊飲み物・おやつ用意してます。

第3回「初心の集い」の御案内

身近な仏事を中心に年に九回開催します。参加お待ちしております。

記

日・時　毎月十三日
午後一時～三時
（一月・八月・十一月は休み）
内　容　お勤めの練習・お内仏のお給仕・お釈迦様、親鸞聖人の教え等・質疑応答
持ち物　念珠・勤行本（貸し出し可）
＊会員制でありませんのでどなたでも参加下さい。（無料）
＊参加申し込みは、別院窓口かFAX（二二一二四一一）まで。

別院子ども会

＊旭川別院子供会　平成29年度　行事予定＊

時　期	内　容	対象学年	備　考
4月29日	万華鏡･うどん作り	新小学1年生	
5月～6月	果物狩り	小学1年生以上	
夏休み	キャンプ	小学3年生以上	※近郊寺院共同
夏休み	別院お泊まり会	小学1年生～2年生	
9月～10月	子供会報恩講	小学1年生以上	
冬休み	お泊まり会	小学3年生以上	※近郊寺院共同
冬休み	別院お泊まり会	小学1年生～2年生	
3月	別院お泊まり会	小学1年生以上	

今年の旭川別院年間行事予定です。詳しい日程につきましては時期が近づき次第、封書にて御案内させていただきます。案内をご希望の方は旭川別院子供会担当までお問い合わせ下さい。今年１回目の子供会は新１年生（今年の春に１年生になった方）対象で４月29日（土）を予定しています。御門徒の方だけに限らず沢山のお子様の参加をお待ちしていますのでお誘い合わせのうえご参加下さい。（要申し込み）

法座案内

本院

7月
1日　午後7時　列座学習会　畠山　明光師
7日　午後1時　群萌の会　列座
8日　午後1時　マヤの会　列座
13日　午後1時～3時　初心の集い　輪番・列座
15日　午後7時～8時30分　旭川別院公開講座　竹橋　太師
16日　午前7時～8時　旭川別院公開講座　竹橋　太師
18日　午後1時　同朋の会　列座
未定　午後1時　婦人会あゆみ会　列座

豊岡出張所

4月
26日　午後1時　定例法座　智恵光寺住職　松澤　正樹師

5月
11日　午後1時　定例法座　顕正寺前住職　高岡　晃正師
26日　午後1時　定例法座　興隆寺住職　伊藤　秀師

6月
未定　報恩講相談会予定

7月
未定　豊岡出張所報恩講予定

旭川別院公開講座

講師　竹橋太先生（本山・儀式指導研究所研究員）

夜の部 19:00~20:30　ぶっきょう入門講座

お釈迦様の生涯を通じて、仏教の基本的な事柄をお伝えします

会場／大谷ホール1階　参加費／1回500円

スケジュール	テーマ
4/8（土）	誕生-史上の釈尊-
5/13（土）	出家-いのちより大切なもの-
6/24（土）	苦行 -仏教の世界観-
7/15（土）	正覚 -縁起の法-
9/16（土）	説法躊躇 -梵天勧請-
10/21（土）	説法 -初転法輪 中道と四諦・八正道-
12/16（土）	涅槃

朝の部 7:00~8:00　生活の中の仏教語

私たちの生活の中には、知らず知らずに使っている仏教語がいくつもあります。日常的に使っている意味と、仏教本来の意味合いの違いを紹介します

会場／旭川別院 本堂　参加費／無料

スケジュール	テーマ		
4/9（日）	我慢①	9/17（日）	愚痴（愚癡）
5/14（日）	馬鹿	10/22（日）	我慢②
6/25（日）	世間	12/17（日）	祇園
7/16（日）	悪魔		

豊岡出張所退任のご挨拶

三月末日をもちまして、十四年間お世話になりました旭川別院を退職いたしました。また、豊岡出張所在任中（七年間）は、公私にわたり格別のご高配を賜り誠にありがとうございました。ここに深くお礼を申し上げます。これからは旭川別院での経験を活かしながら、あせらずにゆっくりと、新しい生活に慣れていこうと考えております。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

合掌

（四月より在勤が居ませんので、恐れ入りますが、お問い合わせは旭川別院の方へご連絡下さい。）

仏法あれこれ

法事は誰のためにするの？

法事は、仏法の事業（はたらき）の略といわれています。一般には、お経をあげて亡き人の死後の幸せ（冥福）を祈るものだと考えられています。しかし、お釈迦さまの教えからいうと死者の幸せを祈るということはありません。

ではなぜお参りするのでしょう？仏教本来の意味からいうと、生きている私たちが仏の教えに遇うためにするのです。

法事はおもに一周忌、三回忌、七回忌、十三回忌、十七回忌、二十三回忌、二十七回忌、三十三回忌、三十七回忌、五十回忌と続きます。

年忌の数え方は中国の儒教、暦や儀礼、また江戸時代の慣習などがもとになっています、これもあまり仏教とは関係ありません。

しかし、それを縁として亡き人を偲び亡き人を通して、残った私たちが仏の教えを聞いていくことが大切なことといえます。

私たちの世界は穢土（汚れた世界）と申します。それは争いの絶えない、煩悩にまみれた世界のことです。そして仏のおられる世界は浄土（争いのない世界）と申します。

その清浄な浄土から、自縄自縛（自分自身でがんじがらめにして苦しむ）する私たちに、早くそこから解放されて下さいと、いつも願いがかけられているのです。

その願いに出遇うことが、法事、つまり仏法の事業なのです。

（北田）

ほろ酔い仏法談義

開店17年を迎えた東京、四谷の坊主バー。今夜も、たくさんの語らいが生まれています。グラス越しに垣間見る、さまざまな人生模様をお届けします。

第2回　本当は大切にされています！

普段はおとなしくても、お酒が入ると愚痴が出る人は大勢います。特に職場についての不満は、給料の安さから上司の口臭まで千差万別。今夜も、「お坊さん、聞いて下さい！」と、若い女性が私の隣席に座りました。「私、ブラック企業に勤めてしまったんです。つらくてたまりません」と、彼女は涙ぐみつつ嘆きます。詳しく聞けば、同僚は皆、定時に退社するのに、自分だけが毎日4時間半も残業させられていて、埼玉県の自宅に帰り着くのは0時過ぎとのこと。「これは、昨今問題になっている労働基準法無視の悪徳企業か？」と思いましたが、どうも話が腑に落ちません。

そこで、私はたずねました。「あなただけが、大量の仕事を押し付けられているのかな？」。「いいえ、仕事の量は皆同じです」。「じゃあ、どうしてあなただけ4時間半も残業しているの？」。「同僚は、退社時間までに仕事が終わりますが、私は終わらないんです。残業しても終わらない時があるけど、一緒に残った部長が、もういいよと言ってくれるので帰ります」。「残業手当は、ちゃんと出ていますか？お給料は？」。「はい、残業代は出ています。お給料は同期の人と同じです」。「上司や同僚は、あなたを嫌ったり、意地悪をしたりしますか？」。「いいえ、皆仲良くしてくれます」。私は申しました。「今の会社をやめてはいけません。あなたは、とても大切にされていますよ！」。

店を経営している私も思うことですが、企業は利潤を追求しなければなりませんから、同じお金を出すなら、出来るだけ会社にとって有益な人を雇います。つまり、残業代を支払っても仕事が終わらない人の代わりに、きちんと仕事を済ませて定時に退社する人を入れたいのです。しかし、彼女の勤める会社は、少し違うようです。不器用で仕事の遅い彼女を排除することなく、共に働く仲間として認め、受け入れていますから。しかも、部長が毎日、残業に付き合ってくれるとは！。もし「ブラック企業」と呼ばれる会社だったら、有り得ないことでしょう。そして、自分では気付いていなくても、彼女には、周囲の人から好かれる魅力が備わっているのかもしれません。

私は中学時代、身体が不自由だったこともあって、大変過酷ないじめを受けました。ここで言えないような、ひどい目にも遭っています。当時を思い出すと、今でも胸が苦しくなるほどです。でも、ある方から、「お身体が不自由だったら、遠足や修学旅行へ行けず、つらかったのではありませんか？」と問いかけられ、ハッとしました。私は、遠足や林間学校、修学旅行に、すべて参加しており、それは楽しい思い出として残っています。皆と同じペースで行動することが出来なくても、学校行事に参加出来たのは、いじめをする連中とは異なり、私のペースに合わせて一緒に行動してくれた同級生が、何人もいたからにほかなりません。でも、私は彼らに「有難う」も「ごめんね」も言えませんでした。いじめの被害者という地位に、あぐらをかいていたのです。そんな姿勢が、何年か後で人生に行き詰まる導火線になってしまいました。

つらく苦しい目に遭うと、自分を大切にしてくれる存在が見えなくなり、敵視さえしてしまう私達の姿は、まさに「罪悪深重煩悩熾盛」。仏法に我が身を照らしていただき、真実と向き合える者として、教えを聞き続けたいものです。

東京ボウズバー会長
田口　弘氏

1961年　東京生まれ、真宗大谷派僧侶
栃木県慈願寺衆徒　大谷派専修学院卒業
旭川別院に４年間勤務
仏教酒場「東京ボウズバー」主催

旭川別院職員紹介

よろしくお願い申し上げます。

金崎　恵明（輪番・園長）

井畑　毅俊（列座）

川村　唯心（列座）

大野　信（主任・列座）

小宮山一貴（列座）

福芳　応彰（列座見習）

北田　康生（教化主任・列座）

安居　宏淳（列座）

原田　和幸（会計）

草部　俊裕（列座）

矢田　浩之（列座）

横井　淑英（書記）

経森　由章（列座）

柳澤　智証（列座）

鳥海　恵子（賄掛）

大谷さくら幼稚園職員紹介

澤田石浩美（副園長）

吉川　典加（教論）

福井　悠子（教論）

藤川　幸子（教論）

竹内　彩（教論）

和賀　静江（パート教諭）

小野寺里奈（パート教諭）

河井　美樹（事務）

齋藤　純一（運転手）

稲場　嘉則（パート運転手）

耳を澄ませば（五）

旭川大学短期大学部 幼児教育学科教授
北海道教区十六組 大成寺坊守
五十嵐　路子

ようやく木の芽が顔を出し、長かった北国の冬に別れを告げて春の訪れを感じる季節になりました。この季節になると必ず歌われるのが校歌（園歌）です。卒業式や入学式で声をそろえて歌った校歌を皆さんは覚えておいででしょうか。何度も歌ったはずなのに意外と思い出せないというのも校歌かもしれません。

先日、偶然にも谷川俊太郎さん作詞、大中恩さん作曲の校歌を見つけました。谷川俊太郎と言えば幼児さんを持つお母様方には「もこもこもこ」という絵本でおなじみの作家です。奇想天外の発想力で私たちを圧倒してくれるとても素敵な絵本作家でもあります。一方、大中恩と言えば「いぬのおまわりさん」や「さっちゃん」などの作曲で知られている大作曲家です。この二人が共同で作られた小学校の校歌はどのような歌なのかと興味が湧き、楽譜をもとにピアノで弾きながら歌ってみました。大中さんのメロディーは広がりのある爽やかさと柔らかさを兼ね備え、宇宙的なダイナミックさを感じさせる谷川さんの詩にぴったりと寄り添い、全体がとても素晴らしい校歌となっていました。1番、2番を歌った後にコーダの様についている最後のフレーズが「えらーいひとになるよりも、よいにんげんになりたいなー、○○小のわたしたちー」と歌っているところが、いかにも素朴で谷川俊太郎さんらしいと微笑んでしまいました。

子どもの頃にうたった歌は、潜在的に私たちの身体に浸み込んでいます。だからこそ、全く覚えていないと感じる小学校の校歌も、大人になってから子どもたちが歌うのを聞くとてから子どもたちが歌うのを聞くと自然とメロディーや歌詞が蘇ってくるのです。幼稚園や小学校でお友だちと声を合わせて歌った歌の、メロディーの美しさやリズムの楽しさ、そして言葉の深さは子どもたちの体の中にずっと生きてゆくものだと思います。私たち大人は、子どもたちに与える歌をもっと気遣って選びたいものですね。

うどんげ

だんだんと春めいてきました。日の昇りも早くなり、季節の移り変わりを感じる今日この頃です。〝暑さ寒さも彼岸まで〟という言葉があるように、もう春はそこまで来ているように感じます。この季節になりますと、車でお参りに行く途中に、よく教習所の車を見かけます。車の免許を取るだろう若い人が運転していて、私も当時の自分を思い起こします。3月末で奥田列座が退職なさいます。何か季節の移り変わりと共に時間の移り変わりも感じる今日この頃です。

京都にいる私の先生はよく私に「変わらないと駄目ですよ」という話をしてくれます。それは時間の移り変わりと共に私の置かれている環境が変わるからだと思います。仕事も生活も己を虚しくして行かなければ、発見がありません。ある大谷派のお寺さんは、「聴かないと聞こえない」という事を言いますが、意識して〝きく〟のが「聴」です。そうしないと生活の発見である「聞」こえるという事は起こり得ません。「聞」こえたら、いよいよまた「聴」かなければなりません。それは「聞」こえる内容が不肖の自己であるからです。愚かとはそういう自己の発見であるように思います。

北陸では「あたわりや」という言葉がありますが、自分の一切が「あたわったもの」であると頷いていく歩みが真宗の念仏生活ではないでしょうか。しかし、自分に少しでも一物があると、「そうは言っても私が頑張ったのだから」と素直に自分を頂いていけません。そうなると感謝の心が起こらず、昏くなります。蓮如上人は「仏法は無我にて候」とおっしゃっていますが、自分を虚しくしなければ、すぐに愚痴・不平・不満が出て、自分の人生を受け止めることが難しいように思います。愚痴・不平・不満一杯の不肖の自己の発見を親鸞の仏教に求めるとき、仏教が自分に活きてくるのだと思います。（安居）

お知らせ　平素は、事務取り扱いは**午前９時～午後４時30分迄**・納骨堂のお参りは**午前８時30分～午後８時迄**　※場合により変更あり